令和６年度
学校関係者評価　報告書

令和６年３月 14 日実施
学校法人　エイシンカレッジ
長岡こども福祉カレッジ

令和７年４月３日

令和５年度　学校関係者評価報告書

学校法人　エイシンカレッジ
長岡こども福祉カレッジ
学校関係者評価委員会

学校法人　エイシンカレッジ　長岡こども福祉カレッジ　学校関係者評価委員会は令和６年度自己点検・自己評価報告書の結果に基づいて学校関係者評価を実施しましたので以下のとおり報告致します。

１．基本方針

本学における学校関係者評価は学校自己評価（項目別の自己評価表）を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」 に則って実施することを基本方針とする。
また、公表については「長岡こども福祉カレッジ 学校評価実施規定」に則するものとする。

２．出席者一覧表

名前	役職	所属（企業・団体名）
＜学校関係者評価委員＞		
元井　信明	代表	合資会社　ケアサポート長岡
松井　良太	支店長	株式会社　エィエィピー
米山　光行	事務長	社会福祉法人　朋友福祉会
＜事務局＞		
伊東　美子	学科長（介護福祉科）	長岡こども福祉カレッジ
名地　宙	学科長（社会福祉科）	長岡こども福祉カレッジ
嘉代　由美子	学科長（こども保育科）	長岡こども福祉カレッジ
＜進行＞		
小林　幹直	事務局長	長岡こども福祉カレッジ

３．委員会次第（概要）

・開催日時　令和６年３月 14 日（金）　14:00　～　15:00
・実施場所　長岡こども福祉カレッジ　　5F 教室

（１）自己評価に関する改善討議

①教育理念・目標　②学校運営　③教育活動　④学修成果

⑤学生支援　⑥教育環境　⑦学生の受入れ募集　⑧財務

⑨法令等の遵守　⑩社会貢献・地域貢献

（以上の評価項目に関するご意見・ご提言を頂いた）

（２）委員による総括

４．学校関係者評価委員による評価・指摘事項

① 教育理念・目標

・学外への学校の理念等の周知は今後も積極的な働きかけをしていってほしい。

・社会福祉士の国家試験の結果を確認した。

よく指導できている点は引き続き励行して頂きたい。改善を要する点は話し合い向上して欲しい。

② 学校運営

・学生、教職員に対し、定期健康診断を実施できている。

・選択制の出勤時間を採用したが、大きな課題は生じていない。

③ 教育活動

・教職員の研修の機会が十分とはいえない。

特にコミュニケーション能力向上の取り組みとして対面での研修会を実施してほしい。

・関連業界と協議交流がなされているので、より有益な取り組みになるよう継続励行していってほしい。

④ 学修成果

・留学生のアルバイト等の生活状況や学習状況の把握は個別に対応していく必要がある。医療機関の受診、勤務態度や勤務姿勢、時間感覚の把握は徹底してほしい。

・多様な背景や悩みを抱える生徒が増えてきている。

面談や対応方法に関する研究を進めるとともに、早く気づき対応できるよう、学校外でのコミュニケーションをとっていったほうがよい。

（生徒は学校外だと本心を話しやすい）

⑤ 学生支援

・相談に関しては、担任と学科の教員で連携をとって対応する体制が整備されいる。

・卒業後の退職防止や定着支援の体系化を図っていってほしい。

・「高等教育の修学支援新制度」の手続きの保護者周知の機会が必要と考える。
春に保護者対象の説明会を実施しているが、個別での相談も対応していってほしい。

⑥ 教育環境

・昨年度の報告であった地震を想定した避難訓練を実施して点は評価できる。
・耐用年数が迫っているものもあり、事故防止の観点からも順次修繕や交換をしていってほしい。

⑦ 学生の受入れ募集

・適切な募集活動がおこなわれている。
・入学予定者に対する各学科の特性に即した学習支援ができている。
・保育士志望の生徒数が減少しているように感じる。
学校の魅力だけでなく、保育士という仕事の魅力も伝えていってほしい。

⑧ 財務

・予算の計画、実績把握が適正におこなわれている。
・インボイス制度に対応した会計事務が取られている。

⑨ 法令等の遵守

・規則（法令・内規）の一括管理とデジタル化は検討の余地があるのではないか。

⑩ 社会貢献・地域貢献

・コロナ禍で減少していたボランティア活動も回復してきているが、施設のボランティア活動は少ない状況である。
学校の方からも積極的にアプローチしてほしい。
・教育資源（施設・設備・教職員等）の地域社会への提供で高校との連携だけでなく、小学校や中学校との連携もできるのではないか。

～学校関係者評価の総括～

学校の自己評価を基に令和 6 年度の学校活動に関して検証した。教育活動やその成果に関しては概ね適正であると評価する。ただし、多様化する生徒への対応やよりよい教育のための研修機会の創出など、変化を恐れず社会に貢献する人材育成に努めて頂きたいところである。本委員会も引き続き提言に努め学校運営の発展に寄与していきたい。